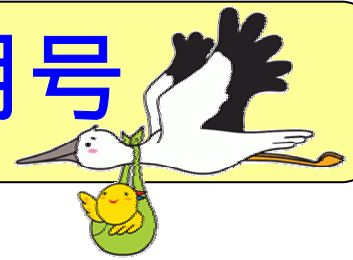


# 子ども未来通信 10 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html)



## 阪神北地域夢会議がさわやかフォーラム「みんなで創ろう！子どもの笑顔があふれるまち」を開催（9月21日）



阪神北地域ビジョン委員会と阪神北県民局は、子どもが生き生きと育つ、魅力あふれる社会をつくる答えを探るため、子どもと家庭、地域社会、自然、学校との関係について話し合う地域夢会議を三田市内で開催。分科会毎に、コミュニケーションや地域で子どもを見守っていく重要性について、参加者の体験を踏まえた意見交換を行いました。井戸知事をコメンテーターとして迎えた全体会では、分科会の報告と自由討論が行われ、知事は「県では、子どもと家族・家庭について考え、きずなを深める契機とする『家族の日』運動を推進している。このフォーラムを子どもの笑顔があふれる社会づくりについて考えるきっかけにしてほしい」と呼びかけました。

（問）阪神北県民局地域ビジョン課 0797-83-3119

## 少年の主張兵庫県大会「中学生のメッセージ 2008」を開催（9月28日）



中学生が日常生活の中での思いや考え、感銘を受けた事柄などを、自分の言葉でまとめ、発表する「少年の主張兵庫県大会」が県公館で開催され、「こころ豊かな人づくり 500 人委員」や保護者の方々などが、10 人の中学生の主張に熱心に耳を傾け、子どもたちへの理解と関心を深めました。審査の結果「人のつながり」をテーマに発表した渡部大介さん(尼崎市立中央中学校 3 年)が最優秀賞を受賞。

齋藤副知事は、「みなさんの未来に拓がる可能性に期待します」と激励するとともに、子どもを支え見守る大人たちに対し、「今後も子どもたちの心の声に耳を傾け、各地域でさらなる青少年育成活動をお願いしたい」と呼びかけました。

（問）県男女青少年課 078-362-3143

## 阪神北県民局が小児救急医療を考える子育て応援ネットワーク交流大会を開催（9月27日）

阪神北県民局は、家庭の看護力の低下や育児不安が増大していることをふまえ、子どもの急病時における保護者等の不安解消につながる適切な受診や、小児救急医療を地域で広げていくために必要なことなどについて学ぶ交流大会を川西市内で開催。山崎武美・阪神北広域こども急病センター長の基調講演では、同センターの小児救急医療の取り組みや、子どものけがや急病への適切な対処法などについて説明があり、続いて行われたパネルディスカッションでは、小児救急医療電話相談（8000）の利用状況や、小児救急医療の適切なかわり方を地域で広げていくためにどうすべきかが話し合われました。



（問）阪神北県民局地域協働課 0797-83-3136

## 県看護協会が育児と仕事の両立を進めるための子育て支援フォーラムを開催（9月20日）

（社）兵庫県看護協会（大森綾子会長）は、育児と仕事の両立を進めるための、子育て支援フォーラムを神戸市内で開催。大森会長の「少子化・核家族化が進み、地域の子育て支援が求められている。仕事と子育ての両立のため、カンガルーネットを通じた病児・病後児に対する保育サービスの充実化を進めたい」との挨拶に続き、保育園を考える親の会の普光院亜紀代表からは、子どもが病気になった際の対応等について講演が行われ、「共働きの人が安心して仕事と子育てができる社会にしましょう」と呼びかけました。



普光院亜紀代表の講演

（問）県児童課 078-362-3199

### まちの寺子屋師範塾が続々開講（9月17・26・27日）

県と県内14大学が協力して、地域の子育て支援を進める「まちの寺子屋プロジェクト」として「まちの寺子屋師範塾」が開催中。9月17日に園田学園女子大学において“園田流子育て講座”をテーマに「子どもの救急処置」や、「子どもを取り巻く食事情」などについて、26日に神戸女子大学において“食と子育てを学ぶ”をテーマに「こどもたちの健康を守る」などについて、27日に神戸親和女子大学において“子育てをどう支援するか”をテーマに「これからの子育てに求められるもの」などについての各講座が開講しました。10月以降開講の講座等については、次の県ホームページをご覧ください。 URL：[http://web.pref.hyogo.jp/hw09/hw09\\_000000171.html#h03](http://web.pref.hyogo.jp/hw09/hw09_000000171.html#h03)



神戸親和女子大学の講座

（問）県少子対策課 078-362-4183

### 地域女性団体ネットワーク会議を開催（9月16日）

連合婦人会をはじめ18団体で構成する地域女性団体ネットワーク会議（北野美智子会長）が神戸市内で協議会を開催。子育て応援ネットの取り組みや、子育て応援ネット3つの活動（「子どもの食・遊び・睡眠」「子どもの安全見守り」「SOSキャッチ活動」）の推進について報告が行われたあと、PTAとの連携強化や、若い会員の獲得の必要性等について意見交換が行われました。（問）県少子対策課 078-362-4185



### 県立こどもの館が読み聞かせ指導者養成講座を開催（9月10・11・17・18日）



県立こどもの館は、児童館や地域の子育て施設などで、読み聞かせによる子育ての輪を広げるための指導者養成講座を芦屋市内で開催。講師の佐藤厚・上田女子短期大学准教授（劇団ひまわり俳優養成所講師）の指導のもと、約50名の受講者が、絵本の世界を子どもたちに伝える方法を、実技形式で学びました。受講生からは「読む側の気持ちで絵本の面白さが左右されると感じた。今後は作者の思いを感じながら、読み聞かせをしていきたい」などの感想が寄せられました。（問）県立こどもの館 079-267-1153

### 県立総合衛生学院がすこやかな子育て・親育ち応援事業を開催（9月10日）

県立総合衛生学院は、新長田大丸・ジョイプラザ名店会・ホテルサーフ神戸アスタ等との共催で、すこやかな子育て親育ちを応援する「すこやか親子セミナー」をスタート。全6回シリーズで、今回は、まちの子育てひろば体験活動指導員とともに、「楽しく親子で遊ぼう」をテーマに、人形劇や親子ストレッチなどのほか、妊婦相談・子育て相談を実施。48名の参加があり、「乳児をもつ親同士が触れ合うことができて楽しかった」などの声が寄せられた一方、助産師や保育士に「おっぱいが足りているか心配」「予防接種の受け方がわからない」などの相談がありました。（問）県立総合衛生学院 078-733-6611



### ひょうご子育て応援の店に「セブン・イレブン」も参加 ~2,486店舗に~

子育て世帯を社会全体で支援する「ひょうご子育て応援の店」は、10月1日現在で協力店舗が2,486になりました。新たに加わった「セブン・イレブン」では、パスポートの提示により、絵本をプレゼントするほか、店頭でミルク用のお湯も提供します。店舗情報やパスポートの取得方法等については、次の県ホームページをご覧ください。

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000024.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000024.html)

携帯電話からのパスポート画面取得：右のQRコード（又は [apply@hyogo-kosodate.jp](mailto:apply@hyogo-kosodate.jp)）にアクセスしてください。

（問）県少子対策課 078-362-4232



セブン・イレブン神戸栄町通2丁目店



## NPO・企業・行政が連携し「子育て支援メッセ」を開催（9月6日）



未来と現在の親世代に子育て支援のあり方を提示し、自分たちの今後について考えるきっかけとなるよう、NPOと行政の子育て支援会議（代表幹事・河口紅 NPO法人さんびいす理事長）が兵庫自治学会などとの共催による「子育て支援メッセ」を神戸市内で開催。当日参加した250人を超える親子は、NPOや企業が出展した子育て支援活動を紹介するブースや健康相談、ベビーサイン体験や人形劇などの催しを楽しみました。支援会議では今後、各地域での交流会を予定しています。

（問）NPO法人さんびいす 0797-22-8896 / 県少子対策課 078-362-4185

## 県立男女共同参画センターが子育て支援の公開講座を開催（9月5日）

県立男女共同参画センターは、男女共同参画アドバイザー養成塾講座「みんなで子育てを応援しよう！」を開催。勝木洋子・神戸松蔭女子学院大学人間科学部教授が「子育て支援は、できない人を助けるのではなく、保護者自身が子育てをできるようにすること」と講演しました。地域の子育て支援団体からの事例報告も行われ、山田留利子・ひおか子育てひろば代表は「地域活動を長続きさせるコツは、上下関係をつくらないこと」、小泉雅子・NPO法人保育ネットワーク・ミルク理事長は「母親が自立できるような子育て支援を行いたい」と語りました。



（問）県立男女共同参画センター 078-360-8550

## 子育て家庭を応援します！県民局レポート 「青少年のための科学の祭典 2008 東はりま会場大会」を開催 ～東播磨県民局～

4月にオープンした東播磨生活創造センター「かこむ」を会場として、8月23・24日に東播磨地域の「青少年のための科学の祭典」が開催されました。明石市立天文学館の移動式プラネタリウムをはじめ、中・高・大学生や企業等からは、分光万華鏡づくりや古代の火起こし体験などのブースの出展がありました。約2,000人が訪れ、参加した子どもからは「たくさんの『発見』と『感動』」を体験することができてよかった」との感想が寄せられました。（問）東播磨生活創造センター 079-421-1136



## 子育て応援ネット全県大会の参加者を募集（10月15日締切）

県少子対策課は、地域ぐるみで子育て家庭を支援する「子育て応援ネット」の活動事例などを交えながら、地域の子育て支援について考えるとともに、協働して子育て支援を行う者同士の思いを共有するための、全県大会を開催します。日時：10月20日(月)13:00～15:40 場所：県公館 大会議室 定員：400名 締切：10月15日(水) 先着順 参加料：無料 （問）県少子対策課 078-362-4185

## ひょうご“仕事と生活”バランス推進フォーラムの参加者を募集（10月21日締切）

県しごと支援課は、「仕事と生活」のバランスにより、一人ひとりが生き生きと働ける職場環境づくりや活力ある企業経営を図れるよう、具体的な方策について意見交換や提案を行うフォーラムを開催します。日時：10月22日(水)13:30～16:30 場所：県公館大ホール 定員：300名 締切：10月21日(火) 先着順 参加料：無料 「兵庫県電子申請 e-ひょうご」又は携帯電話からも申し込みができます。（問）県しごと支援課 078-362-9183



携帯申込みQRコード

## 団体・大学・企業の活動紹介

### 西宮市瓦木地区青少年愛護協議会（西宮市） ～みんなの居場所を提供～

西宮瓦木地区青少年愛護協議会（山本三千・代表）は、西宮市の瓦木、深津の2小学校区において県民交流広場事業に取り組んできた、地域交流スペース「ぽっかぽっかひろば」の運営をしています。同ひろばは、午前10時から午後7時ごろまで運営しており、小さな子ども連れのお母さんたちや地域の人たちが思い思いに過ごしています。毎日放課後には、元気な小学生でいっぱいになり、宿題をしたり、パズルで遊んだり、本を読んだりしながら、子どもたちが家庭や学校以外の人々との関わりを通じて子どもの社会で生きていく力を育てています。



（問）西宮市瓦木地区青少年愛護協議会 0798-65-8935

## 大学コンソーシアムひょうご神戸 ~地域交流委員会「キッズオープンキャンパス」の参加者を募集~

県内の44大学等で構成する「大学コンソーシアムひょうご神戸 地域交流委員会」は大学等を地域の子どもたちに開放し、スポーツ、食育、文化及び子育て相談などを行う「キッズオープンキャンパス」の参加者を募集しています。日時、実施大学：下記のとおり 定員：各30名~500名(問)各大学・短大

大学・短大	実施日	問合せ先	大学・短大	実施日	問合せ先
武庫川女子大学	10月18日(土)	0798-45-3598	神戸学院大学	11月15日(土)	078-974-5896
東洋食品工業短期大学	10月25日(土)	072-759-4221	神戸常盤大学	11月22日(日)	078-611-1821
神戸松蔭女子学院大学	10月26日(日)	078-882-6159	神戸親和女子大学	11月22日(日)	078-591-2935
流通科学大学	11月1日(土)	078-794-3555	姫路獨協大学	11月29日(土)	079-223-6593
近大姫路大学	11月2日(日)	079-247-7301	関西国際大学	12月6日(土)	0794-84-3505
神戸女子大学	11月15日(土)、16日(日)	078-737-2474	兵庫大 学	12月21日(日)	079-427-9931

## 県立柏原病院の小児科を守る会(丹波市) ~地域の小児医療を守る取り組みを実施~

県立柏原病院の小児科を守る会(丹生裕子・代表)は、柏原病院の小児科医師増員を求める署名活動を目的として、平成19年4月20日に発足しました。以来、署名活動にとどまらず、3つのスローガン(「コンビニ受診を控えよう」「かかりつけ医を持とう」「お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう」)を基調に、啓発ステッカーの作成、メールマガジンの配信、ありがとうポストの設置など、様々な活動を進めています。平成20年2月には小児救急冊子「病院に行く、その前に...」を作成。冊子「病院に行く、その前に...」丹波市内の乳幼児のいる家庭に全戸配布しました。また、県内外の医療フォーラムに招かれることも多く、これまでの取り組みなどを発表するとともに、安心して暮らせる地域づくりのために“住民としてできること”を幅広く呼びかけています。



冊子「病院に行く、その前に...」

(問) 県立柏原病院の小児科を守る会

ホームページ <http://mamorusyounika.com> メールアドレス [info@mamorusyounika.com](mailto:info@mamorusyounika.com)

## 認定こども園よしみ(丹波市) ~地域の子育て支援拠点として新たな取り組みを実施~

「吉見保育園」が新たに幼稚園機能を備えて「認定こども園よしみ」(荻野尚子・園長)として再スタートしてから約1年半が経過。丹波市から学童保育の運営委託を受けて、小学校3年生までの子どもを預かる一方、在宅の子どもがいる家庭を月1回程度保育士が訪問し、悩みや相談に乗っています。「子どもたちに安全で安心な野菜を食べさせたい」と、地域の人たちが中心となって園の近くの畑で子どもたちと一緒に野菜を育てています。園長は「地域の方々の幼保一体化の願いと、“地域の子育て支援の拠点になりたい”という思いから認定こども園の申請をした。これからも様々な取り組みに挑戦していきたい」と語り、地域の子育て拠点としてだけでなく、地域のふれあいの場として発展していくことが期待されます。



(問) 県児童課 078-362-3199

## コープこうべ(神戸市) ~おとうさんの子育てひろばを開催~



コープこうべは、食育や子育てひろば、産前産後の家事支援など、様々なかたちで子育てを応援しています。9月13日には、日頃地域で子育て支援活動を行っている「コープ子育てサポーター遊ばせ隊」が、コープこうべ生活文化センターにおいて、「おとうさんの子育てひろば『おとうさんと遊ぼう!』」を開催。19組50人が参加し、パラバルーンや玉入れ、風船遊びのほか、手遊びやわらべ歌など、盛りだくさんのプログラムが行われ、親子の絆を一層深めることができました。

(問) コープ活動サポートセンター住吉 078-412-7850

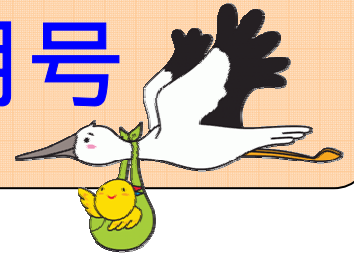
## 編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康福祉部企画少子局少子対策課): E-mail:[shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp](mailto:shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp)

# 子ども未来通信 11 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_000000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html)



## 子育て応援ネット全県大会を開催（10月20日）

地域女性団体ネットワーク会議（連合婦人会など 18 団体で構成・北野美智子会長）と県は、地域ぐるみで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の全県大会を県公館で開催。約 500 名が参加し、明石市、姫路市、豊岡市の推進団体からの活動事例発表や梶田叡一・兵庫教育大学学長による基調講演に続き、SOS キャッチ活動の推進関係団体等との連携強化などについて、小林勝弘・県子ども会連合会理事長、吉田隆三・県児童養護連絡協議会会長、寺見陽子・中部学院大学大学院教授らによるパネルディスカッションが行われ、「安全・安心な地域づくりはもとより、人と人とのネットワークが生きていくような地域づくりを心がけよう」と呼びかけました。



（問）県少子対策課 078-362-4185

## ひょうご仕事と生活バランス推進フォーラムを開催（10月22日）

県と内閣府が共催で、一人ひとりがいきいきと働ける職場環境づくりや企業経営の方法について意見交換などを行うフォーラムを県公館で開催。基調講演では板東久美子・内閣府男女共同参画局長が「男女が生き生きと活躍する社会を目指すために、官民あげて取り組む必要がある」と呼びかけ、パネルディスカッションでは、井戸知事が男性の育児休業取得促進のための職場環境改善への提言を、渥美由喜・(株)富士通総研主任研究員が英国の仕事と生活のバランスの成功事例を紹介しました。おわりに、連合兵庫、県経営者協会、兵庫労働局と県の四者により「ひょうご共同宣言」が発表され、今後も一体となって「仕事と生活のバランス」を推進していくことを確認しました。



（問）県しごと支援課 078-362-9183

## 兵庫県保育大会を開催（10月18日）



（社）県保育協会と県は、保育大会を篠山市内で開催。約 800 名の保育関係者や子育て中の保護者らが集い、趣向を凝らした創意工夫作品の展示や優秀作品の表彰式、絵本オペラの演奏などが行われました。井戸知事は、「集団でふれあう機会が減った現代の子どもたちのコミュニケーション能力をいかに育むかがこれからの課題であり、子育てのプロである保育士や保育所に大きな期待をしている」と述べ、参加者に協力を求めました。

（問）県児童課 078-362-3199

## 子育て応援ネットを推進しています

地域女性団体ネットワーク会議を構成する 18 団体や、自治会、青少年関係団体等が連携・協働して子育て家庭を支援する子育て応援ネットを県内全 814 校区で推進しており、3 つの重点的な活動として、子どもの食・遊び・睡眠に関する事業の推進 登下校時の通学路等での子どもの安全見守りの実施 子育て家庭の気になる SOS サインをキャッチし、こども家庭センター等への連絡活動を展開しています。



（問）県少子対策課 078-362-4185

### 「まちの寺子屋」を募集中（10月7日～）

県は、中高年世代等地域の大人たちの経験や知恵を子育て支援に活かしていくしくみづくりとして「まちの寺子屋プロジェクト」を推進しており、地域の子育て支援の輪を広げていくための「まちの寺子屋」の開催者を募集しています。こま回しやお手玉などの昔遊びを教えながら、「あいさつをする」等の生活習慣や社会のルールを伝えていただける団体やグループを「まちの寺子屋」として認定し、看板を貸し出します。詳細については次の県ホームページをご覧ください。

URL: [http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw09/hw09\\_000000171.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw09/hw09_000000171.html) (問) 県少子対策課 078-362-4232

### 53社と「子育て応援協定」を締結（10月10日）

子どもを安心して生み育てられる環境づくりに向け、県が子育て応援に積極的に取り組む企業等53社と県公館で「子育て応援協定」を締結。続いて、新日本製鐵株式会社広畑製鐵所など4社が、企業の取り組み事例の報告を行いました。この度で県が協定を締結した企業等は303社7団体となりました。

(問) 県少子対策課 078-362-4232



### こどもの館が中学生演劇フェスティバルを開催（10月19日）



県立こどもの館は、中学生の演劇グループを対象に、「ひょうごの中学生演劇フェスティバル」を開催。神戸・明石・三田・加古川市内の6校が出演し、加古川市の中部中学校がこどもの館賞を、神戸市の滝川第二中学校が神戸新聞社賞を受賞しました。出演した中学生からは「後悔しないような演技を心がけた」、観劇者からは「元気いっぱいの中学生の演技に圧倒され、若返ったような気がした」との声が寄せられました。

(問) 県立こどもの館 079-267-1153

### こどもの健康週間兵庫県大会を開催（10月18日）

県と日本小児科医会兵庫地方会などは「こどもの健康週間兵庫県大会」を小野市内で開催。一般から募集した絵画や写真の表彰式と講演会などが行われ、350名が参加しました。講演では徳永順一郎・歯科医師が、生活習慣や食生活による歯の健康への影響を紹介し、「ごはんを中心とした食事」で歯の健康づくりを」と呼びかけました。また歯科衛生士によるフッ素塗布や咬む力のテスト、紙芝居なども行われ、保護者からは「楽しみながら歯の健康について考える良い機会となった」との感想が寄せられました。



(問) 県健康増進課 078-362-3250

### 結婚・出産等で離・退職した女性医師の再就業を支援

県は、結婚や出産等で離・退職した女性医師（産科医又は小児科医）の再就業を支援することを目的とした「女性医師再就業支援センター」を県医師会館内に設置し、座学及び県内医療機関での臨床研修の実施や再就業先の調整などを行っています。研修の参加費は無料で、研修期間中の保育についての相談にも応じています。

(問) 県医務課 078-362-3243 又は女性医師再就業支援センター 078-231-4114

E-mail: [office@hyogo-wdsupport.net](mailto:office@hyogo-wdsupport.net) HP: <http://www.hyogo-wdsupport.net/>

## 行政課題の現場体験研修（少子対策編）を開催（10月14日）



県自治研修所は、少子対策に係る現場体験を踏まえた政策提言を行うことを目的とした研修を県と市町職員を対象に開催。研修生は、子育て支援団体や保育施設を設置している企業など、7箇所での現場体験を踏まえ、父親の育児参加を促すセミナーの開催や、親子で子育てを楽しむ居場所づくりの必要性などに関する提言を行いました。指導にあたった伊藤篤・神戸大学教授からは「様々なニーズへの対応策を考えるにあっては、子どもの発達に応じて、大人の価値観や生活様式も見直すという視点が重要になる」などの助言がありました。

（問）県自治研修所 078-752-1321

## 出会いサポートセンターが淡路夢舞台で交流イベントを開催（10月12日）



ひょうご出会いサポートセンターは、株式会社夢舞台と連携し、ウェスティンホテル淡路と県立淡路夢舞台・奇跡の星植物館で「出会い&交流パーティー」を開催し、男女あわせて57名が参加しました。当日は、花と森と海に抱かれたリゾート空間の中で、奇跡の星植物館内の散策などにより、参加者同士がコミュニケーションを深め、10組のカップルが誕生しました。参加者からは、「ゆったりとした時間を過ごすことができた。このような屋外でのプログラムを加えた交流会の開催を増やして欲しい」といった感想がありました。

（問）ひょうご出会いサポートセンター 078-891-7415

## 淡路市の小学生がキンセンカの体験栽培を実施（10月8日）

淡路市立佐野小学校は、地元地域の特産品であるキンセンカの栽培を通じて、人に対する思いやりや、命を大切にすることを育む体験学習を実施。全校児童65人が参加して、淡路市花卉組合津名支部から贈られたキンセンカの苗400本を、花壇やプランターに植樹しました。同支部の役員から指導を受けた子どもたちは、うまく間隔を取りながら、指先で土に穴を掘って20cmほどに育った苗を丁寧に植えていきました。子どもたちは「元気に育てね」「きちんと水やりをするからね」と声をかけながら、花が立派に咲くことを楽しみにしていました。



（問）淡路市立佐野小学校 0799-65-0004

## 子育て家庭を応援します 県民局レポート 「第2回たじま子どもまつり」を開催 ～但馬県民局～

但馬地域の子育て支援団体など41団体で構成する、たじま「子育て」ネットと但馬県民局は「第2回たじま子どもまつり」を10月11日に養父市内で開催。親子や子育てに関心のある方など、約700人が参加しました。辻本康次・たじま子どもまつり企画運営委員長の「子育て支援団体の輪が広がることを期待します」との挨拶に続き、小学生の絵画コンクールの表彰式が行われました。その後、各会場において子どもたちの和太鼓や合唱の披露、工作教室などが行われ、参加者からは「子育て支援団体が多いことを知り、心強く思った」との声が寄せられました。



（問）但馬県民局地域協働課 0796-26-3644

## ひょうご子育て支援フォーラムの参加者を募集（11月28日締切）

県は、企業・地域・大学が協力して取り組む子育て支援を推進するため、内閣府との共催によりフォーラムを開催。内容：基調講演〔講師/藻谷浩介氏（日本政策投資銀行）〕、パネルディスカッション、子育て応援元気アップ賞表彰式、まちの寺子屋師範塾修了証交付式など。 日時：12月1日（月）13:00～16:00 場所：県公館 大会議室 定員：300名 締切：11月28日（金） 先着順 参加料：無料 一時保育実施（先着10名まで）

（問）県少子対策課 078-362-4232

### 三ツ星ベルト株式会社 ～世界の子どもたちの自立支援のために寄付を実施～

三ツ星ベルト株式会社(西河紀男・代表取締役社長)は、10月19日に「世界の子どもたちに愛の手を」をテーマに記念式典を開催し、子どもたちのために役立ててほしいと、日本ユニセフ協会をはじめ同社の工場がある兵庫県、神戸市等に対し、従業員から寄せられた募金を含めた7,000万円を贈呈しました。贈呈式には、井戸知事や日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんが出席し、知事は「児童養護施設で暮らす子どもたちのスポーツ活動などを支援する事業に使わせていただきたい」とお礼を述べました。同社は震災10周年時にも、同様の趣旨で寄附を行いました。



(問) 三ツ星ベルト株式会社神戸本社 (078)671-5071

### 日本公文教育研究会 ～子育て応援活動「こそだてちえぶくろ」を実施中～



日本公文教育研究会(児玉皓二・代表取締役社長)は、創立以来、多くの親子と出会い、学んだ経験をもとに、乳幼児の親子を対象に子育て応援を実施しています。今年も9月から11月にかけて、県内の各公文教室で0～3歳児を持つ親子を対象に、歌や読み聞かせを中心とした1回30分程度の子育て応援活動を実施。3回シリーズで、参加費は無料です。参加者には絵本や童謡のCDの入った袋をプレゼントしています。

(問) 日本公文教育研究会 0120-372-100・HP:<http://mi-te.jp>

### アシストマミーくらぶ(尼崎市) ～子育てを行うのに適した身近な尼崎をめざして～

アシストマミーくらぶ(鹿島ひろみ・代表)は、「子育てや保育など自分たちの今の立場でできることをやろう」といった思いから、子どもの健やかな成長を目的として発足。乳幼児や多胎児を育てる親の孤立を避けるため、商店街などで、子育て不安の軽減のための託児やリフレッシュするための居場所づくり、親学習やその支援者の質向上のための研修・交流会、子育てサークルへの支援などに取り組み、「子育てを行うのに適した身近な尼崎」を目指した活動の輪を広げています。



(問) アシストマミーくらぶ 080-1425-8198

### NPO 法人日本ベビーサイン協会 ～パパ・ママ育児サミットの参加者を募集～

NPO 法人日本ベビーサイン協会は、育児に楽しく、真剣に取り組むパパとママを応援する講演会、育児応援セミナー、ママジョブフェアなどを内容としたイベントを開催します。日 時：11月30日(日)11:00～16:30 場 所：神戸国際会館 締 切：11月29日(土) 講演会のみ要予約、先着順 参加料：無料 (問) NPO法人日本ベビーサイン協会 078-332-7884

### 編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康福祉部企画少子局少子対策課)：E-mail:[shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp](mailto:shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp)



# 子ども未来通信 12 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_00000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html)



## ひょうご子育て支援フォーラムを開催(12月1日)

内閣府・県等の主催により、地域・企業・大学がともに取り組む子育て支援について考えるフォーラムを県公館で開催。基調講演では、藻谷浩介・日本政策投資銀行地域振興部参事役が、少子・高齢社会の姿・課題と退職世代への期待について発表。パネルディスカッションでは、加納多恵子・県民生委員児童委員連合会会長からは「子育ては楽しく、やりがいのあるもの」、伊藤篤・神戸大学大学院教授からは「父親は育児を『手伝う』ではなく『する』意識をもって」などの発言があり、コーディネーターの田端和彦・兵庫大学教授は「様々な立場の者が手を重ね合わせて取り組んでいくことが必要」と締めくくりました。



## 「子育て応援元気アップ表彰式」「まちの寺子屋師範塾修了証交付式」も同時開催



当日は、先進的な地域の子育て支援活動を行った 29 団体等への「子育て応援元気アップ賞」の表彰式と、これまでに県内 14 大学が開催した「まちの寺子屋師範塾」の修了証交付式も併せて開催されました。(問)県少子対策課 078-362-4232



## 「まちの寺子屋」看板第 1 号を交付(12月3日)

県では、地域の大人たちの経験や知恵を子育て支援に活かし、昔遊び等を通じて生活習慣や社会のルールを伝える「まちの寺子屋」を募集中。その第 1 号として、親子のクリーンキャンペーンなどに取り組んでいる姫路労働者福祉協議会(大森唯行会長)に井戸知事が看板を交付。地元の城陽小学校の児童たちも参加し、県立山の学校の生徒が製作した看板(知事揮毫)を手に、知事は「昔遊びなどを通じて地域を盛り立て、夢と希望のある活動をしてください」、大森会長は「この看板を誉れとし、寺子屋プロジェクトを進めたい」と挨拶しました。



(問)県少子対策課 078-362-4232

## ひょうご家庭応援県民大会を開催(11月16日)



ひょうご家庭応援ネットワーク会議と県、内閣府等の主催により、地域や職場で家庭を支えることを考え、その大切さを見つめ直す県民大会を開催。井戸知事は、それぞれの家族が「家族の日」を設けて共通体験を持つことが大切と呼びかけるとともに、知事をはじめ14名が父親の子育てや地域活動等への参画などを応援する「ひょうごおやしネットワーク」の立ち上げ宣言を行いました。(問)県男女家庭室 078-362-3169

## 井戸知事が内閣府の「認定こども園のあり方に関する検討会(第2回)」で提案(11月7日)

認定こども園の制度改革に関する検討会が東京都内で開催され、井戸知事が委員として出席しました。知事は、「子どもを豊かに育てることに現実的に困っているのは、0歳から2歳までの子どもを養育している専業主婦の母親であり、児童虐待などの問題も派生してきている。認定こども園は、この課題を解決するための制度であるが、地域ごとに子育ての環境や取り組みが異なることから、国は最低基準を決め、後は地方に任せてもらえば良い」と提案しました。(問)県児童課 078-362-3199

### 子ども未来プラン推進協議会を開催（11月13日）

県は、少子対策を総合的に推進するため、福祉、教育、保健・医療、労使など関係団体の代表等27名で構成する、子ども未来プラン推進協議会を開催。齋藤副知事は、「子どもは宝であり、出生数の問題だけでなく、どう育てるかも大切。少子対策は直ちに効果が現れるものではないが、行政、家庭、地域、企業等が一体となって一歩一歩進めていきたい」と挨拶。委員からは、「教育委員会との連携を強化し、学校、家庭、地域全体で取り組むべき」「子どもたちのために何かを始めたい人へのサポートが大切」などの意見が述べられました。



（問）県少子対策課 078-362-4183

### 県立大学姫路新在家キャンパスで「まちの寺子屋師範塾」を開催（11月8・15・22日）

県は、県内14大学と協力し、大学で様々な子育て支援について学ぶ「まちの寺子屋師範塾」を順次開催中。11月8・15・22日には県立大学姫路新在家キャンパスで「みんなの食生活を考えよう」をテーマに開講し、約40名が参加しました。この講座は、「食卓の安全と安心」「ビタミンの常識ウソ？ホント？」「アレルギーとの戦いは胎児期からはじまっている！」など、食の安全や子どもたちの健康に関するなじみ深い6つのテーマで構成され、充実した内容となりました。



（問）県少子対策課 078-362-4232

### 地域子育てネットワーク交流大会を開催（11月7・22日）



東播磨女性団体連絡会（北野美智子会長）と東播磨県民局等は、11月7日に明石市内で「東はりま地域子育てネットワーク交流大会」を開催。北野会長が「子育て支援活動の火を絶やさないよう、一丸となってがんばりましょう」と挨拶。続いて、登下校時の見守り活動に関する事例発表などが行われました。

11月22日には、中播磨女性団体連絡会（中野史子会長）と中播磨県民局が、神崎郡市川町内で「中播磨地域子育てネットワーク交流大会」を開催し、中野会長が「地域の子どもを守るためにできることを考えていきましょう」と挨拶。パネルディスカッションでは、小児救急の課題や地域のコミュニケーションの重要性などについて意見が交わされました。

（問）東播磨県民局県民運動課 079-421-9102 / 中播磨県民局県民運動課 079-281-9197

### ひょうご子育て応援の店 ～協賛店舗数が2558店舗に～

子育て世帯を社会全体で支援する「ひょうご子育て応援の店」は、11月30日現在で協力店舗が2,558になりました。新たに加わったビジョンメガネ(32店舗)では、店頭価格から5%(12月は10%)割引、マツダレンタカー(17店舗)では、レンタカー代が25%割引になります。協賛店舗のサービスは県ホームページでご確認ください。 ひょうご子育て応援の店：<http://www.hyogo-kosodate.jp/>

（問）少子対策課 078-362-4232

## こどもの館が子育て支援者に対する体験活動プログラム研修を実施（11月7日）



県立こどもの館は、子育て支援者を対象に、「伝承あそび」の体験活動プログラム研修を実施。まちの子育てひろば体験活動指導員が、わらべうたや手あそび、折り紙等を指導するとともに、姫路市内の子育て支援団体が、木の実工作やこま遊びなどの実技指導や親子のコミュニケーションのポイントについて講話を行いました。参加者からは、「昔あそびが子育てに重要な役割を果たすことを学べた。母親クラブや幼児サークルなどでその楽しさを伝えていきたい」といった声が寄せられました。

（問）県立こどもの館 079-267-1153

## 子育て家庭を応援します！県民局レポート 「阪神南“きずなフェスタ”」を開催～阪神南県民局～

阪神南県民局や尼崎市など3市と地元の社会福祉協議会・企業等は、親子・家族がともに休日を楽しむ中できずなを深め、地域ぐるみの家庭支援のあり方を考えるフェスタを11月16日（日）に尼崎市内で開催。会場の尼崎市中央地区県民交流広場には約400名の親子が訪れ、おもちゃの手づくり教室や人気漫画「忍たま乱太郎」の原画展などを楽しみました。特設ステージでは、北京オリンピック男子400mリレ－銅メダリストの朝原宣治さんをゲストに迎えたトークショーが行われ、朝原さんは「子どもや家族の存在が自分の元気のもとになった」と語りました。



（問）阪神南県民局地域協働課 06-6481-4397

## 県青少年本部が「大人が変わろう」決起大会を開催（11月6日）

県青少年本部は、親や大人自身の生き方が、子どもたちの目にどのように写り、心の成長にどのような影響を与えているかを考え、自身の行動や取り組みを見直す契機とする決起大会を神戸市内で開催。約350名が参加し、青少年指導者への表彰や、青少年の非行防止と健全育成に向けた活動事例発表に続き、高木慶子・聖トマス大学客員教授の講演では、「子どもたちは、人から大事にされ、愛されることによって、いのちの尊さと大切さを実感できるようになる」との話がありました。参加者からは、「明日からの自分の活動を見直すきっかけとなった」などの感想が寄せられました。



（問）県青少年本部 078-891-7410

## 神戸市が「ワーク・ライフ・バランス」推進セミナーを開催（11月9日）



神戸市は、仕事と生活の調和をめざし、地域住民との交流と連携を図るためのセミナーを開催。約40名が参加し、基調講演では、丹生裕子・県立柏原病院の小児科を守る会代表が地域の小児医療を守るために取り組んでいる事例を紹介し、「私たちの活動を知ってもらい、地域住民や小児医療関係者の方々が各々でできることを考えてほしい」と呼びかけました。参加者からは「地域医療を守るためのこうした取り組みはありがたいので、これからもがんばってもらいたい」といった多くの声がありました。

（問）神戸市男女共同参画課 078-322-5179

## 小野市に「商店街の寺子屋」がオープン（11月4日）

小野市教育委員会は、市内商店街のコミュニティセンターで、兵庫教育大学の学生の協力のもと、地域の子どもたちに勉強や様々な体験活動を教える「商店街の寺子屋」を開講。毎週月曜から金曜の放課後に、茶道、工作、昔遊びなどを教え、子どもたちは「大学のお兄さんやお姉さん、おばちゃんたちと遊んだり、けん玉や折り紙を教えてもらって楽しい」と喜んでいました。

（問）コミュニティセンタ - 小野 0794 - 63 - 1020



## 大学・企業・団体の活動紹介

### 神戸常盤大学 ～キッズ“ごっこ”ランド「絵本で遊ぼう」を開催～



神戸常盤大学と長田区社会福祉協議会は、11月22日（土）に子どもたちが絵本を身近に感じられるようにと、約300名の参加のもと、神戸市内で絵本の読み聞かせや、絵本の交換などを実施しました。保護者からは「これまでは読ませるだけだった絵本を、様々な形で子どもたちに“体験”させることができ、とても貴重な経験になった」という声が聞かれ、スタッフを務めた学生にも、貴重な催しとなりました。

（問）神戸常盤大学 078-611-1821 / 長田区社会福祉協議会 078-574-2408

### 神戸新聞社 ～すきっぷ21 - 親子ふれあいコンサートを開催～

神戸新聞社は、乳幼児を育てる家族や初めての出産を控えた妊婦を対象としたふれあいコンサートを11月24日（祝）に神戸市内で開催。約500名が参加し、第1部は身近な材料を使って親子が共に楽しめる遊びの紹介と人気アニメソングなどを中心としたリズムカルなファミリーコンサートを、第2部は産婦人科医による初めての出産・育児についての講演と胎教コンサートが行われました。



（問）神戸新聞社すきっぷ21 mama@kobe-j.co.jp

### NPO 法人 K O B E 子育てネット（神戸市） ～子育て支援機関への助成を実施～

NPO法人K O B E 子育てネット（畑美貴・代表）は、神戸市東灘区で子育て支援に携わる各機関への助成を目的に発足。区内の子育てサークルやひろばへの講師派遣や、区の子育て支援サイトの管理のほか、区役所で開設されている子育てサロン「おあしす」にボランティアスタッフを派遣するなど、子育て中の母親の社会参加を手助けしています。今後は、様々な相談を受けるカウンセリングルームも開設するなど支援の幅を広げる予定です。

（問）NPO法人K O B E 子育てネット 078 - 762 - 5833



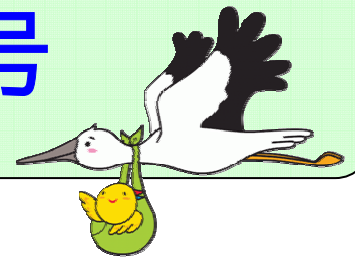
## 編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康福祉部企画少子局少子対策課) : E-mail:shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp

# 子ども未来通信 1 月号

[http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08\\_00000002.html](http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html)



## 児童福祉法・次世代育成支援対策推進法等が改正

「子どもと家族を応援する日本」重点戦略等を踏まえ、家庭的保育事業等の新たな子育て支援サービスの創設、虐待を受けた子ども等に対する家庭的環境における養護の充実、仕事と生活の両立支援のための一般事業主行動計画の策定の促進など、地域や職場における次世代育成支援対策を推進するための改正が行われました。

### 【主な改正内容】

地域における次世代育成支援対策の推進	
1	<b>新たな子育て支援サービスの創設</b> ・家庭的保育事業（保育ママ）、すべての子どもを対象とした一時預かり事業、乳幼児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）等を法上に位置づけ、市町村におけるサービスの実施を促進
2	<b>困難な状況にある子どもや家族に対する支援の強化</b> ・養子縁組を前提としない里親（養育里親）の制度化等、里親制度を社会的養護の受け皿として拡充 ・虐待を受けた子ども等を養育者の住居において養育する事業（ファミリーホーム）を創設 ・虐待を発見した者の通告の義務化
3	<b>地域における子育て支援サービスの基盤整備（*1,2）</b> ・市町村の行動計画策定に当たり参酌すべき保育サービスの量等に関する標準を国等で規定
職場における次世代育成支援対策の推進	
	・一般事業主行動計画（仕事と家庭の両立を支援するための雇用環境の整備等）の策定・届出の義務づけの対象範囲を従業員301人以上から101人以上に拡大(*3) ・一般事業主行動計画の公表・従業員への周知を計画の策定・届出義務のある企業に義務化

平成 21 年 4 月 1 日施行（\*1 は交付の日から起算して 6 か月を超えない範囲で政令で定める日、\*2 は平成 22 年 4 月 1 日、\*3 は平成 23 年 4 月 1 日施行）  
 (問)県児童課 078-362-3182

## 「こうのとりの会」で成婚 100 組目が誕生（12 月 6 日）

県内農山漁村部の男性と都市部などの女性との出会い・交流の場を提供し、豊かな自然の中での新しい暮らしを支援する「こうのとりの会」（会長・井戸知事）は、設立から 9 年が経過。会員数は男女合わせて 3,200 人を超え、各会員が様々な交流会に参加して交流を深めるなか、この度、成婚 100 組目が誕生。このカップルは、丹波市山南町在住の瀬川純司さんと同市柏原町出身の麻利さんで、今年 3 月に“ユニットピアささやま”での交流会で出会い、12 月 6 日に三田市内で挙式。16 日には、井戸知事から、直筆の色紙「望」と花束が夫妻に贈呈されました。このとりの会では、随時、会員を募集しています。



(問)こうのとりの会事務局 078-891-7416

## 内閣府の「認定こども園のあり方に関する検討会（第 3 回）」に意見を提出（12 月 12 日）

認定こども園の制度改革に関する 3 回目の検討会が東京都内で開催。吉田・県健康福祉部参事は、「子育てを保育に欠ける・欠けないで区分せず、すべての子育て家庭への支援が必要。本県では、国の認定こども園制度の基準に想定されていない保育に欠けない 0～2 歳児も対象にしている。国の制度としても対象とすべき」と意見を述べました。

(問)県児童課 078-362-3199



## 淡路子育て応援ネットワーク交流大会を開催（12月2日）

淡路県民局と県中央こども家庭センターは、地域ぐるみで子育てを考える「淡路子育て応援ネットワーク交流会」を淡路市内で開催。子育て家庭応援推進員、子育て中の母親など約90名が参加しました。同センターの頓田二郎・児童福祉専門員が「地域における虐待予防と早期発見」と題して講演し、子育て中の親の孤立を防ぐため住民の協力が必要と呼びかけました。続いてパネルディスカッションが行われ、防犯活動、医療、育児相談などの立場からの事例紹介や地域で抱える課題について意見が交わされました。（問）淡路県民局地域協働課 0799-26-2045



## 「都賀川こどもフォーラム」を開催（12月18日）

地元小学校、都賀川を守る会、神戸市灘区役所、神戸県民局は合同で、都賀川を題材に総合的な学習を進めてきた沿川の小学校と都賀川を守る会の取組みの発表と交流会を神戸市内で行いました。都賀川は、かつて“死の川”とまで呼ばれていましたが、30年以上にわたる地域住民の清掃活動や県等の河川整備により、天然のアユが遡上するまでの清流が甦りました。当日は、各グループがこれまでの学習の成果をポスターセッション形式で発表し、自然と地域を愛する心を高めました。（問）神戸県民局神戸土木事務所河川課 078-737-2157



## 県立美術館でこどものためのコレクション展 を開催（3月15日まで）



《ポンポンポン》元永定正  
1972年

県立美術館では、子どもたちも楽しく鑑賞できるコレクション展の第3弾として、「親子で楽しむ現代美術」を開催。親子であれこれ語り合いながら、作品のもつ様々な表情に触れることができるよう、「形」「文字」「もの」「色」という4つのキーワードに沿って、絵画から立体まで、選りすぐりの作品70点を展示しています。また、兵庫県三田市を拠点にユニークな創作活動を展開した東山嘉事<sup>ひがしやま かじ</sup>を回顧する特集コーナーも設置。批判精神とユーモアに満ちた彼の世界を紹介します。

（問）県立美術館 078-262-0901

## 子育て家庭を応援します！県民局レポート 仕事と子育ての両立支援助成冊子を作成 ～北播磨県民局～

北播磨県民局では、子育てをしながら安心して働くことができる雇用環境の整備に積極的に取り組んでいただくため、管内の事業主向けに、仕事と子育ての両立支援に関する助成制度などの情報を掲載した冊子を作成しました。

主な内容 / 両立支援に関する助成制度、一般事業主行動計画の策定、企業のイメージアップの取り組み等  
配布先 / 北播磨管内の商工会議所・商工会の会員、労働基準監督署、ハローワーク、社会保険事務所、市町関係機関等（北播磨県民局から郵送可能。要問合せ）



（問）北播磨県民局地域協働課 0795-42-9516

## 県国際交流協会とNPO法人 IMAGINE が子どもフェスタ「絵本展」を開催（12月13日～25日）

県国際交流協会とNPO法人IMAGINEは、日本語と外国語の絵本の展示とその読み聞かせを通して、子どもたちの世界の童話への興味を引き出し、国際感覚を養うとともに、親子の繋がりを深めることを目的とした絵本展を神戸市内で開催。日本語・英語・フランス語などで書かれたクリスマス絵本や童話などの約160冊の蔵書を子どもたちが自由に読んだり、県国際交流員が外国語で読み聞かせを行い、初めて目や耳にすることは、子どもたちは目を輝かせていました。



(問)(財)県国際交流協会 078-230-3267 / NPO 法人 IMAGINE 078-231-0245

## 児童健全育成大会の参加者を募集（2月20日締切）

県立こどもの館は、子育て支援施設や地域団体・NPO・行政・大学等が情報の共有化や連携を図りながら協力して子育て支援に取り組む方策を探るための交流大会を開催。内容：基調講演「(仮題)変わりゆく子どもの遊びと社会」(講師：小川博久・聖徳大学人文学部教授)及びリレートーク、手作り絵本コンクール表彰式など。日時：2月22日(日)13:00～16:30 場所：(社)県看護協会 ハーモニーホール 定員：350名 締切：2月20日(金) 先着順 参加料：無料 一時保育実施(先着10名まで)

(問)県立こどもの館 079-267-1153

## ひょうご出会いサポートセンターがコミュニケーションカアップセミナー&交流会の参加者を募集（各回10日前締切）

ひょうご出会いサポートセンターでは、心理カウンセラーを講師に迎え、コミュニケーション力を高めて互いの理解を深めつつ、出会いから結婚までのアドバイスを行うセミナー&交流会を3回シリーズで開催します。第1回「新春縁結び 婚活セミナー&ティーパーティー・出会いからプレデート編」(1/18)、第2回「恋愛コミュニケーション4つの力・交際スタート編」(2/8)、第3回「相手の気持ちを理解するスキル・交際から結婚編」(3/1) 参加回数は選択可。各回10日前締切 サポートセンターでは、週末を中心に多彩な交流会を開催。事前に会員登録が必要です。詳細はお問い合わせください。

(問)ひょうご出会いサポートセンター(県青少年本部内)078-891-7415

## 男女の仕事と生活のバランス推進フォーラムの参加者を募集（1月26日締切）

県は、仕事と生活のバランスについての理解を深め、地域の実情に応じた男女共同参画のさらなる推進を図るため、内閣府との共催によりフォーラムを開催。内容：基調講演「地域の力でさらなる推進！仕事と生活のバランス・男女共同参画」(講師：中橋恵美子・NPO法人わははネット理事長) パネルディスカッション、交流会 日時：2月12日(木)13:00～16:30 場所：神戸クリスタルホール 定員：300名 締切：1月26日(月) 先着順 参加料：無料

(問)県立男女共同参画センター 078-360-8550

## NPOと行政の子育て支援会議が西宮市で地域交流会を開催（1月19日締切）

「NPOと行政の子育て支援会議」は、まちの子育てひろば、子どもの冒険ひろば、地域の子育て支援拠点を主なテーマとして、NPOと行政が連携した地域の子育て支援を考える交流会を行います。日時：平成21年1月21日(水)10:30～12:00 場所：西宮市立高須児童センター 対象者：当会の会員・賛助会員、当会に興味をお持ちの方 特に、子育て世代、子どもの交流・たまり場を提供しているNPO、地域子育て支援拠点担当の市町職員 内容：同センターの視察、NPOや行政からの地域子育て支援拠点などの事例報告等 締切：1月19日(月)

(問)県少子対策課 078-362-4232

## 団体の活動紹介

### 高砂会（神戸市） ～歳事を通じての「まちの寺子屋」を実施～



高砂会（高砂京子・主宰）では、“創の書”という新しい分野を開拓し、“芸術の書”の普及に努めています。「まちの寺子屋」にも取り組んでおり、11月と12月には、正月の祝箸袋づくりや水引きの結び方などを指導しながら、昔の正月の過ごし方や干支の話など、日本の文化も伝えました。始めは挨拶もしなかった子どもたちも夢中になり、大人たちとも話を交わしながら、「おかあさんにプレゼントするつもりだったけれど自分のものにしたい」など、満足のいく作品に仕上げました。帰りには、皆笑顔で「ありがとうございました」と挨拶もでき、「まちの寺子屋心得」が自ずと会得できたようです。

（問）高砂会 078-753-0369

### HeartMam（ハートママ） ～心ゆたかに子育てできる環境づくりを目指して～

HeartMam（高田佳代子・代表）は、神戸市垂水区を中心に、公民館等の講座での一時保育、地域・小学校での絵本の読み聞かせ、子育て講座などを行っています。また、県立総合衛生学院と地域の商店会等が実施する「すこやかな子育て・親育ち応援事業」に保育ボランティアとして参加し、親子のふれあいタイムを担当しています。将来的には活動拠点をもって、誰もが心ゆたかな子育てができるよう、母親だけでなくいろいろな立場の人々が子育てにかかわることができる空間づくりに取り組んでいく予定で、一緒に活動できる仲間を募集しています。



（問）高田佳代子 078-755-0973

### NPO 法人日本ベビーサイン協会（神戸市） ～パパ・ママ育児サミットを開催～

NPO 法人日本ベビーサイン協会（吉中みちる理事長）は、11月30日に、育児に楽しく、真剣に取り組むパパとママを応援するイベントを神戸市内で開催。かっこいい育児のスタイルを目指すパパとママが赤ちゃんをつれて、約400名が参加。3つの講演が行われ、NPO 法人 Fathering Japan の安藤哲也氏は仕事も育児も楽しむ生き方、産婦人科医の大門美智子氏は親子の絆づくりの大切さ、吉中理事長はベビーサインを取り入れて感動する子育てについて、発表しました。また、最先端の育児情報を提供する育児応援ブースやママの再就職支援フェアなども併せて開催されました。



（問）NPO 法人日本ベビーサイン協会 078-332-7884

### NPO 法人ウィズネイチャー（神戸市） ～メールマガジンを発刊～

NPO 法人ウィズネイチャー（西森由美子・理事長）は、お母さん、お父さんに向けた地域の子育て情報ポータルサイト「みんな e-net」の配信に続き、メールマガジンを発刊しました。サイトのリンク先の団体・企業のイベントや行政の施策など、盛りだくさん。県が実施している「子育て応援の店」の協賛店舗も紹介しています。配信は、office@with-n.org までメールで申し込みください。

（問）NPO 法人ウィズネイチャー 078-621-3127 <http://minna-e.net>

### 編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康福祉部企画少子局少子対策課) E-mail : [shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp](mailto:shoshitaisaku@pref.hyogo.lg.jp)